

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 24年 12月 21日(金曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 05分
会議名	丸子地域協議会(平成 24年度第 10回)		
出席委員	齊藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、齊藤實委員、笹井文雄委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、松山慶子委員、宮坂雄一委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員、山本進委員【欠席】中澤ゆかる委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、児玉地域振興政策幹、原澤都市建設部管理課長、芹澤市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、小林消防課長、依田都市建設部管理課長補佐、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会（宮澤センター次長）

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ（齊藤会長）

今年も残すところ 10日ほどになりました。師走の大変忙しい中、大勢の委員の皆様にご参集いただきありがとうございます。つい先日終わりました衆議院選挙においては、民主党から自民党へ政権が変わる中で、来年は是非いい年になってほしいと思っています。

今年は、例年に比べると 4倍もの雪が日本海側や北海道などで降っているということです。上田市は非常に寒いですが、雪もなく過ごしやすいのではないかと考えています。

本日も全体会終了後に分科会を開催する予定です。御協力よろしく申し上げます。

3 報告

(1) 丸子地域における地籍調査事業の現状と今後の進め方について

- ・都市建設部管理課地籍調査係から資料説明。
- ・丸子地域は平成 7年に茂沢地区の地籍の調査を開始し、これまでに依田地区を終了。平成 22年度から石井地区着手、今年度は狐塚地区を実施。丸子地域の進捗率は 127%。上田市全体では 184%。
- ・今後の方針としては、上田地域と丸子地域を重点的に実施。また、効果的かつ緊急を要する地域を優先的に実施していく。平成 21年 10月の地域協議会において、千曲川、依田川、矢の沢川の氾濫に備えた対応ということで長瀬地区の早期調査開始を強く要望された経緯もある。丸子地域において人口が集中している「用途地域」、あるいは東日本大震災の教訓を踏まえ、依田川に沿った洪水ハザードマップの被害想定地域といった区域を優先的に進めていく。

資料 1: 地籍調査事業の現状と進め方

主な質疑の内容

(委員) 鹿教湯地区でも、土地の境界問題が出てきている。なるべく早い対応で進めていただきたい。先日、西内・平井地区で内村ダムが決壊したとの想定で避難訓練を行

ったが、避難場所が川の近くの公民館であり、実際に洪水が起きた場合、皆流されてしまうのではないかと思った。もしも内村ダムが決壊した場合、どの辺りまで被害が及ぶのか、またそういったデータはあるか。

(管理課長)市で作成した洪水ハザードマップには、鹿教湯周辺の状況は特に入っていない。できるだけ早くという要望については、今年から少し工夫してできるだけ進捗を早めるようにしているので、御理解いただきたい。

(建設課長)議会の一般質問でもそのような質問があった。その時に県へも問い合わせたが、内村ダムの構造は今回の地震の規模でも壊れないという回答で、壊れた時の想定はそもそもしていないとのことである。

(委員)古いものでもいいので、情報やデータがあれば教えてほしい。そういった要望があるということをご承知願いたい。

(委員)資料にある細かい図面だと区域などがどこまでかわからない。私の地元は長瀬になるのだが、もっと詳細な大きい図面を早めにいただきたい。自治会長として立ち会う場面もかなり出てくると思う。日程調整等や皆さんに心構えをしてもらう必要もあるのでよろしくお願ひしたい。また、工程や予定はどうなっているのか。

(管理課長)1年間に0.4k㎡ずつ進めていくことになる。2年間で一つの地域。予定としては、26年に下長瀬、28年に町組・上長瀬、30年に下丸子、32・34年に中丸子である。

(委員)それは完了の日にちか。それとも、着手するのが26年度なのか。

(管理課長)下長瀬は、26、27年の2ヵ年。26年に着手し、27年に終了予定である。上長瀬は28、29年。下丸子は30、31年という予定である。

(委員)一筆調査等全部終わった後に閲覧があるが、その段階までが2年間で終わると理解してよいか。

(管理課長)はい。その2ヵ年で全てが終了するということである。

(委員)測量は26年から入っていくという事でよいか。

(管理課長)通常、測量は1年目に行く。例えば下長瀬の場合は、26年度に立会いをし、翌年にかけて全てが完了するということである。

(委員)固定資産税などへは調査が終わった順に反映されていくということか。

(管理課長)はい。そこで正確な面積等が決まるので、登記が完了した翌年度から反映していくことになる。

(会長)とても大変な仕事だと思うが、迅速にお願いしたい。

(2) 分科会及び研究会での検討状況について(各分科会等の会長から報告)

(ア) 市民団体の交流と相互連携に関する分科会

(魅力アップ応援事業について地域振興課から報告)

・提言に沿った見直しを検討しているが、限度額の見直しは難しい状況である。

(魅力アップ応援事業に関して意見交換)

・決定する前にも提言の趣旨を十分反映するようにしてもらいたい。

・補助期間については、提言どおり5年程度を目安に延長してもらいたい。

・変更案に対しては、必要に応じて分科会からの要望を伝えてもらいたい。

(交流会の開催について)

【結論】

- ・平成 25年 2月 3日(日)を交流会開催の候補日とする。
2月 3日は別の行事等と重なるため、2月 9 10 16 17日あたりで開催日を設定
しなりたい。最も大勢が参加できる日では是非お願いしたい。
 - ・第 2回目の魅力アップ応援事業実施箇所視察を行う。(内村地区以外の地域)
1月か 2月の協議会全体会後の 1時間程度の視察は可能、ただ協議事項が多く、会
議時間を長く取らなければいけない状況になれば難しいとのこと。うまく調整し、
できるようなら視察を行いたいと考えている。委員の皆さんの賛否も是非伺いたい。
- 資料 3: 市民団体の交流と相互連携に関する分科会(第 4回会議)会議概要

(イ) 公共交通に関する分科会

(PR 活動の進め方について意見交換)

- ・10月 1日から運行改正になったが、改定前と改定後の利用者数は殆ど変わっていない。
利用者からは賛否両論。 利用頻度を高めてもらえるように PR 活動をする。
- ・社会福祉協議会のおたっしゃクラブ等の活動機会を捉え、各自治会やボランティア団
体等に PR 活動を行っている。建設課から丸子地域の校長会等へも PR を行っている。
- ・詳しい状況を把握するために、建設課に実際に乗って調査してもらう。
12月 18、19日に調査を実施。結果はまだ出てきていない。

【結論】

- ・PR をもっと効果的に進めていく。
- ・今後は、ルート変更、車両の問題、バス停の問題、その他に区切って議論を進める。
- ・建設課を中心として PR、周知をし、もう少し有効な形にしたい。
- ・もう暫く経過観察をし、変更するところは変更し、PR 活動を行っていきたい。

資料 3: 公共交通に関する分科会(第 4回会議)会議概要

(ウ) 地域内分権と地域経営会議に関する研究会

- ・資料に基づきポイント説明。詳細は資料 2参照。
- ・研究会はこれまで 2回開催。先行している他都市の地域内分権の取組みを勉強。
- ・行政と地域がパートナーシップをもって協力し合っていくことが非常に重要である。
- ・行政が今後の行政を進める上で、「地域力」をいかに使っていくかという観点で捉える
ことが、地域内分権が地域で進んでいくかどうかの一番のポイントになる。
- ・今後は、長野市、松本市、飯田市等の県内他市の取組み状況等を勉強する。
- ・「地域内分権の確立に向けた第 4ステージの展開について」の資料をベースに、上田市
が取組もうとするものと他市の取組みを対比し、課題の抽出を図りたい。
- ・今年度中にある程度の方向性を出したい。

資料 2: 地域内分権に向けた地域経営会議研究会 中間報告

(イ) 商店街活力アップに関する研究会

第 1回研究会(12月 5日)

(ファーストビルを中心とした商店街活用アップについて)

- ・ 中心市街地でのイベントとしては、ポケットパーク祭りを開催している。
 - ・ 地域の絆再生会議では、買い物補助事業とイベント事業を行っている。
- (ファーストビルの活用方法について)
- ・ まずは駐車場の確保を考えてはどうか。人が集まってくれる場所にすることが重要。
 - ・ 1階部分の仕切りを開放して、イベントなどの開催を考えることはできないか。
 - ・ 1階フロアが開放されれば、冠婚葬祭イベントの利用者が増えるのではないか。
 - ・ JA やあさつゆ、地域外の食に関する団体との連携も考えられるのではないか。
 - ・ 事務所的な利用ではなく、商業ビルとしての改築も考えていかなければいけない。
 - ・ 裏の一方通行の道を通行止めにして、道路も含めた一帯のイベントを考えられないか。
 - ・ 若い事業主さんたちとの話し合い(世代交流による新たな発想)も必要ではないか。

【結論】

- ・ ファーストビル 1階を開放的なスペースにすることで、利用効率を向上させたい。
- ・ 人が集まる商店街、地域づくりに向け、今後も議論を進めていく。
- ・ 難しい問題ではあるが、会議を重ねて少しでも良い提案をしていきたい。
- ・ 次回会議では、どんな手法があるか、具体的な方策などを検討する。

(オ) 新しい観光に関する研究会

- ・ 前回会議において、12月の早い段階で第2回会議を持ちたいと発言したが、まだ開催できていない状況である。
- ・ 今後も産業観光課と一緒に会議を持ち、継続して研究していきたい。

(カ) 丸子ドドンコ見直しに関する研究会

- ・ 先月の研究会開催はなし。

(自治会長連絡会の総会での意見)

- ・ 地域の祭りは地域でということで、自治会がもっと関与していかなければいけない。実行委員会にできるだけ各自治会長を入れ、実行委員会組織、各地域の自治会、商工会全部がタイアップ、実体のある実行委員会を構成しなければいけないのではないか。

(キ) 地域の産婦人科医療を考える研究会

12月 18日に研究会開催

- ・ 助産所とうみと上田市産院の視察についての感想を話し合う。

(今後の研究会の進め方について)

- ・ 健康福祉課と相談しながら、出産を考えている若い世代を対象にアンケート調査や聞き取り調査を行い、地域の皆さんが産婦人科医療に対してどんな考え方や要望を持っているかを探っていく。

主な質疑の内容

(会長) 市民団体の交流に関する分科会長から交流会の開催を2月9、10、16、17日のいずれかでという提案があったが、皆さんの予定はどうか。

(分科会長) 先ほどの報告の中には入れなかったが、3月の報告会の中の一部に交流会的なところを盛り込み、同時に行うことも考えられるのではないかという案も出ている。

(事務局) 行政側は、特段予定は入っていない。

(分科会長) 全体会後の分科会で決定してよいか。

(委員) はい。

(会長) では、詳細事項は分科会で決定し、進めていただきたい。次に、2回目の現地視察についての御意見をいただきたい。

(分科会長) 是非見に来てほしいというところがあれば、そこを中心に計画することもできる。また、来年度に持ち越そうということであればそれでも構わない。

(会長) 視察についても分科会にお任せしたい。色々な状況等を鑑みながら検討をお願いしたい。交流会のあり方については、こんな形で是非やってほしいという意見や要望があれば伺いたい。

(分科会長) 今回は、連携しながら発展的に今の活動を継続できるような、新たな活動団体ができるような後押しができればいいなというところもある。花木をテーマにした活動団体が大変多く、桜マップを作りたいなどという意見もかなりあったので、例えば丸子の桜めぐりという感じで花木のグループが連携し、新しい事業として、イベントとして何か計画するようなことができると、やってみたいと手を挙げるような人たちがいると、非常に私たちも応援しやすい。連携の仕方やこの人に声を掛けてもいいよということなどあれば伺いたい。

(会長) 意見等ないようなので、引続き分科会でよろしくをお願いしたい。

4 その他

(1) 次回以降の会議の日程等について

- ・第11回丸子地域協議会 平成25年1月30日(水曜日)午後1時30分から
丸子地域自治センター4階 講堂
- ・第12回丸子地域協議会 平成25年2月26日(火曜日)午後1時30分から

(2) その他

(ア) 木曾義仲拳兵武者行列事業について

- ・前回会議で要望があった木曾義仲拳兵武者行列事業について、事務局から説明。
- ・市として、かわりを持ちながら事業を推進している。丸子地域の誇りとして、必要な事業だと認識しており、応援は必要だと思っている。
- ・今年においては、木曾義仲信州丸子会が第3回の真田幸村公出陣ねぶたまつりに参加したということで、活動とすれば広がりを見せはじめてきていると思う。
- ・予算的な問題については、地域協議会の中の意見等を十分伝えながら進めていただければと思っている。また、事業報告書の最後に実行委員会のメンバーが掲載されているが、地域協議会委員の皆さんも実行委員会に大勢が参加しているということも考えられる。そういう中で、是非色々な意見を出しながら、より良いものにしていくと思っていただければありがたい。

資料4: 木曾義仲拳兵武者行列 事業報告書、資料5:「義仲・巴」広域連携推進会議会則、
資料: 義仲・巴出世街道マップ

主な質疑の内容

- (委員) 上田市負担金は、一般会計から出ているのか。
- (センター次長) 持寄り基金を充当したという金額である。

(委員) 一般会計から出ていないということは、市議会では審議されないのか。

(センター次長) いえ、審議はされています。

(委員) 市議会では、この600万円に何の異議もなく通るということか。

(センター次長) 当初予算の中で説明し、御理解をいただいたということになる。

(委員) 反対しているわけではないが、真田まつりはダンボールの手作り鎧のようなものを身につけ大変綺麗だった。レンタル費として300万もの金額を出さなければいけないのか、この趣旨がどうなのかと思う。

(センター次長) 実行委員会の中で、そういう議論もあったと聞いている。ただ、実行委員会全体の中で、やはり史実に基づいたそれなりの衣装がどうしても着たいという強い思いがあったということで、そうした意見に基づき衣装を調達したということである。

(委員) 最終的には市議会を通すとか色々あるにして、費用を掛けるということについて、自治センターとして妥当であるという理解のもとで前回はやっており、今回もそういう趣旨で予算計画を立てていると当然理解するわけで、要はこの支出と実際にこの地域で色々な活動が行われているものとの比較の問題で、実際にどういう成果が得られ、期待効果に対して十分満足するような結果であったかという面を含めた上で、妥当であるという市の判断のもとでこの計画が出されていると理解している。他の色々な地域おこしや地域活性化の費用との対比でこれが妥当であるということについて、なかなか計画的に話すのは難しいと思うが、十分に市としての予算振り分け、その部分で妥当であるというところの納得性が今一つピンとこないので、色々な意見が出てくるのだと思う。私もまだ理解しきれていない。今後の方針をもっときちんと分かるような形で示していただきたい。

(センター次長) 意見として、認知度が低いという部分があると思う。報告書にもあるように、実施している皆さんとしては、認知度は上がってきているという認識を持っているということであるが、前回の反省の中で、さらに認知度を高めるための工夫をしていかなければいけないということも出ており、それらも実行委員会の中でお伝えしながら、地域の誇りである木曾義仲をさらに認知していただくということも進めていったらどうかと思っている。確かに、一部の人だけの活動ではないのかという言い方をされてしまうのだが、地域の中で非常に熱心に取り組んでおられることは事実である。上田市というよりもむしろ丸子地域といった場合に、木曾義仲の拳兵の地であるということをご皆さんの認識の中に植えつけていただき、地域や全国へ発信していくことも必要だろうと思っている。また、地域協議会委員の皆さんからも、おそらく何人かは実行委員会に加わっていく方が出てくると思う。そのようなことも含め、実行委員会の中で色々な意見を出していただければありがたいと思っている。

(センター長) 資料4 武者行列の事業報告書1ページをご覧ください。一番上段にあるように、武者行列を実施した21年度というのは、21年をげんき丸子ステップアップイヤーと位置づけ、色々な事業を行った年であった。18年3月に合併し、18、19、20年と3年経過し、合併して果たしてどうだったのかという意見や疑問が出てきた年でもあった。この時に、丸子地域として一生懸命やっている、丸子地域の住民は元気にやっているということを見せたいという部分もあり、武者行列、また丸子公民館の改築やファーストビルの改修等を行った年であった。この「げんき丸子ステップアップイヤー」の年を踏み台として、ともすれば埋没してしまうのではないかとされていた丸子、周辺地域になっ

うという年だったわけである。木曾義仲拳兵の地ということで、旧丸子町時代は木曾義仲を中心にまちづくりをやっていこうという部分もあり、皆さんご存知のように、現在の丸子太鼓「鼓城」の前身は、「木曾義仲拳兵太鼓」であったわけである。そんなことで21年度に実施し、こういう報告書ができ上がり、この実行委員会とすれば、大変な効果があったと判断しているということだと思う。私は、前回会議を欠席したのだが、会議録を読み、木曾義仲の武者行列は本当に600万円の価値があったのかという話が皆さんの中から出てきているということを知ったところである。では、何がそうだったのか。もっと地域の人たちを巻き込んだ取り組みや宣伝、自分たちだけの行列ではなく、丸子地域皆が参加して一緒になってやっている行列、やって良かったという風になってもらわなければ困ると思っている。そういう面からすると、今までの取り組みが広がりには欠けていた部分があるのかなと、私自身も考えたところである。21年度にやり、また次は4年後ぐらいにという話があり、来年が4年目になるわけである。皆さんの意見を伺っていると、地域の中での浸透や広がりが少し足りないと思うし、こだわりの衣装ではあるが果たして340万円を出して借りる価値はあるのか。皆さんからの意見等をこれから組織されるであろう実行委員会へ伝え、私たちももっと広がりを持った活動はできないか、地域を巻き込んでのまつりにできないかということと一緒に考えながら、実行させていただきたいと思っているので、御理解をお願いしたい。

(委員) 持寄り基金を使うわけで、4年後にも、そのまた4年後にも持寄り基金を使うのか。持寄り基金はそれほどあるのか。

(センター長) 原資を持寄り基金にしており、持寄り基金の残高は4億円くらいある。ただ、オリンピックのように4年ごとにやっていくのかと言えば、そうではなく評価次第だと思う。来年度やった時の評価によって、4年後にまたやってもいいのではないかなるか、それともこれではどうなのかという評価になれば4年後はなかなか難しくなると思う。来年度は予算に上げたが、4年後に上がるかどうかは、今後の話になってくると思う。

(委員) 一部の声の大きい人からの「楽しかったから4年後もやろう」という話が済し崩しになり、いつの間にかまた4年後になってくるということはないか。

(センター長) 先ほど申したように、来年やった評価が次を決めるとしている。その評価というのは、一部の人たちではなく、地域協議会や地域の皆さんが「良かったね」となるかどうかだと思う。それがなければ、たとえ持寄り基金とはいえ、なかなかそれを使ってというのは難しいと思っている。

(委員) 600万円を支出するかどうかはセンターとして判断するわけで、実行委員会が一生懸命やろうとするのは当然である。それが妥当であるとか、それを継続できるように、できるだけ地域に浸透させる方法を実行委員会に提言することがセンターの、行政の役割になるのではないかと聞いていると、実行委員会に任せているような感じがする。実行委員会が一生懸命やるのは当然の立場であり、要望されるように支出するのは妥当であるか、支出したらそれだけのものを作ってもらえるように側面支援したり、指導したりして進めることがセンターの役割ではないか。4年後にやっていくかどうか、ひとつはセンターの姿勢にかかわってくるのではないかと。

(センター長) 先ほど申し上げたが、今まで広がりがなかったとか認知度が低かったとかいう話はちゃんと伝え、そうでないようにはしてもらわなければいけないので、それはセンターとしてもやっていきますということ。もう一つは、判断を次回という部分については、

そういうことがちゃんとでき、地域を上げてのイベントになりましたという話にならなければ次はないということを婉曲に申し上げているつもりである。そうでないような形で、取り組んでもらわなければならないと思っており、私たちも予算に上げた以上は、そのようになるべく努力、支援をしていきたいと思っている。

(委員)資料 5の第 5条、「会議の経費は、負担金その他の収入をもって充てる」とあるが、上田市の負担金はいくらか。

(センター次長)広域連携の関係は、上田市としては出していないということである。

(委員)公表していないということか。

(センター次長)負担金として出していないということです。

(産業観光課長)上田市は会議へ出席するだけで、いわば顔つなぎのような形で参加しており、事業等には直接関わっておらず、負担金の支出は無い。

(会長)地域が元気になるような形での取り組みをしていただき、また、実行委員会には地域協議会で出た意見等踏まえ、頑張っていたいただきたいと思う。

(イ) その他

・まるこ地域づくり講演会のお知らせ(産業観光課)

「未来の子どもたちのために 今、自分にできること」

平成 25年 1月 17日(木) 午後 6時 30分から 丸子文化会館セレスホール

講師:(株)S・Yワークス 代表取締役 佐藤芳直氏

(委員)東日本大震災などで、ハザードマップが大きく変わったのであれば、新しい全体像のわかるハザードマップを次回の協議会で配布していただきたい。

先月、工業振興会で姉妹都市のブルームフィールド市へ行ってきた。いずれは、ブルームフィールド市の商工業関係の方に来ていただきたいという希望を出しているのですが、その場合には、御協力をいただけるようお願いしたい。

(建設課長)ハザードマップの変更はない。土砂災害警戒区域については、指定された全丸子地域分の図面が建設課にあるのでご覧いただきたい。

5 閉会 15:05 地域協議会終了後、分科会開催(第2 4会議室)